

うす紅の

(昭和五十四年寮歌)

鶴原文孝君 作歌
高田和重君 作曲

一

うす紅くれなゐの秋あきゆうぐれに
滅ほろびの風かぜは吹ふき荒すさぶ
斜しや陽ようかげ射さす日ひに移うつろいて
傾かたぶく姿すがた痛いたましく
我が胸むねに満みつ過いにし日ひの映はえ
懐おもいは恵迪けいてきと共ともに

二

うす紫むらさきの冬ふゆあけどきに
透すみわたる風底かぜそこ凍こる
もの音おと絶たえて冷つめたく寒さむく
暗くらくも映はむ空むなしさに
倒たおれゆくもの今いまこの時ときに
想おもいは恵迪けいてきと共ともに

三

うす靄もやけぶる春はるあけぼのに
昔せきじつ日の影かげたゆたい惑まどう
されど緑みどりはまだ若わかくして
咲さき初そむ花はなの望のぞみもて
新あたしき日ひのかげろい浮うかぶ
憧あこがれ恵迪けいてきと共ともに

四

うす花はないろの夏なつよい闇やみに
たまゆら風かぜはさわやけし
我が宴うたげにも星降ほしふる幸さちと
歌うたう寮友とともらの嬉うれしさに
憩いこえる帆ほにも希おもいありたし
夢ゆめこそ恵迪けいてきと共ともに

五

うつろう四季ときに感おも慨いをこめて
朽くちゆくものを見みつめつつ
いまだ乾かわかぬ血涙けつなみをもて
ただひたすらに祈いのり捧ささぐ
唯ただ一しんじつ真実みちの迪のこを残のこさむ
想おもいは恵迪けいてきを永遠ととわに
希おもいは恵迪けいてきよ永遠ととわに